龍谷大学アジア仏教文化研究センター　ワーキングペーパー
No.16-07（2017 年 3 月 31 日）
調査報告

初期仏教英書伝道資料の解題

那須英勝

（龍谷大学文学部教授）

目次

『A SHORT HISTORY OF THE TWELVE JAPANESE BUDDHIST SECTS』　南條文雄著訳（英文）

『'TRUE SECT OF BUDDHISTS（英文真宗教旨　和文付）』（英文・和文）

【キーワード】

仏教英書伝道　仏教十二宗綱要　英文真宗教旨

南條文雄　小栗栖香頂　ゼームス・ツループ

現在、龍谷大学アジア仏教文化センター（BARC）のグループ 1（通時的研究班）ユニット B「近代日本仏教と国際社会」と、グループ 2（共時的研究班）ユニット B「多文化共生社会における日本仏教の課題と展望」では、両グループの共同研究として、明治中期以降に、仏教・真宗教義を英語で紹介しようとする動きの中で、出版されていった仏教英書伝道資料の翻刻出版するプロジェクトが進められている。本ワーキングペーパーは、現在、中西直樹･嵩満也･那須英勝編『仏教英書伝道のあけぼの（仮称)』として BARC 研究叢書として、2017 年度に出版が予定されているプロジェクトの成果の一部の報告である。

以下は、1886 年に出版された『A SHORT HISTORY OF THE TWELVE JAPANESE BUDDHIST SECTS』南條文雄著訳（英文）と、1888 年に出版された『‘TRUE SECT OF BUDDHISTS（英文真宗教旨　和文付)』（英文・和文）の 2 編の解題として、本プロジェクトにおいて那須が担当している部分である。なお、このワーキングペーパー執筆にあたり、中西直樹先生には両書の資料と書誌情報などのご提供を受けましたことを拝謝いたします。

文献解題：

『A SHORT HISTORY OF THE TWELVE JAPANESE BUDDHIST SECTS』　南條文雄著訳（英文）
和文タイトル：仏教十二宗綱要　発兌元：仏教書英訳出版舎　　1886 年 12 月出版
原著編集：小栗栖香頂

本書の日本語版も同時刊行されており、国立国会図書館近代ライブラリーでも全文を閲覧することができる。その奥付には次のような内容が記されている。

『仏教十二宗綱要』　編集人：小栗栖香頂　出版人：佐野正道　発兌：仏教書英訳出版舎　1886 年 11 月出版

本書の出版に至る状況については、イントロダクションの前に付された、南條文雄の英文の「序文」（Preface）に比較的詳しく説明されている。

まず南條は本書の英語版の編纂を引き受けたものの、翻訳すべき原稿が全て揃わない状況で作業を始めることになり、さらに原稿そのものも担当者によって執筆のスタイルが統一されておらず、しかもそれらを、他の仕事をこなしながら短期間で英訳しなければならなかったという困難な状況があったことを正直に伝えている。また、実際に提出された原稿は、必ずしも英訳することを前提に書かれていなかったようで、それを英語にする際に、あまりも複雑な記述が用いられているものについてはその部分を抄訳し、場合によっては一部を省略しなければならなかったことも記している。

なお、本書のイントロダクションから以下の部分の和文原稿の著者は、英文本文には記されていないが、南條の「序文」によると、イントロダクション、5 章（三論宗)、6 章（華厳宗)、8 章（真言宗）

の原稿は真宗の小栗栖香頂が執筆し、1 章（倶舎宗）も真宗の江村秀山が、2 章（成実宗）、3 章（律宗）は真言宗の上田照遍、4 章（法相宗）は同じく真言宗の高志大了、7 章（天台宗）は天台宗の上邨教観がそれぞれ執筆したとある。9 章以下のいわゆる「八宗」以外についての原稿は、福田行誡（9 章：浄土宗）、辻顕高（10 章：禅宗）、赤松連城（11 章：真宗）、小林是純（12 章：日蓮宗）と、各宗の学匠による執筆であることを伝えている。

また、これは本書の日本語版と比較していただければわかることであるが、1 章（倶舎宗）の原稿は、真言宗の佐伯旭雅に、5 章（三論宗）は真言宗の上野相憲、6 章（華厳宗）は時宗の卍山（かずやま）実弁にそれぞれ執筆が依頼されていたようであるが、原稿が届くのが英語版の出版に間に合わず、止むを得ず別の執筆者のものを使用したことも記されている。なおこのうち、卍山以外の原稿は、日本語版の出版には間に合ったようで、それぞれの著者名で出版されている。

サンスクリット語の文献学者である南條は、本書の原稿の翻訳にあたり、漢語で記述された仏教思想の独特の表現を英語にするのにかなりの苦労をしたようであり、「序文」末尾に、本書の英訳については、W.S.ビゲロー（William Sturgis Bigelow）と B.H.チェンバレン（Basil Hall Chamberlain）の助力を得たことを記していることも興味深い。

『‘TRUE SECT OF BUDDHISTS（英文真宗教旨　和文付）』（英文・和文）
英国領事ゼームス、ツループ君著　南條文雄・赤松連城同校
発行者：船井政太郎　1888 年 5 月出版

本書は、その表紙に記されているように、英国領事として神戸に赴任していたゼームス・ツループ氏が、小栗栖香頂氏が中国布教推進のために漢文で執筆した『真宗教旨』を英文で紹介するために、1885 年秋に東京で開催された、日本アジア協会（The Asiatic Society of Japan）の総会（General Meeting）で発表した報告論文に、漢文で出版された『真宗教旨』の和文（抄出訳）を付して、書籍として出版されたものである。本書の和訳タイトルは『英文真宗教旨』とあり、また内容の大部分が漢文原文の翻訳ではあるが、正確には漢文『真宗教旨』抄出訳というべき性格のものである。

漢文版は、国立国会図書館近代ライブラリーで全文を閲覧することができる。その表紙・奥付には次のような内容が記されている。

『真宗教旨』　真宗東派本願寺教育課蔵版　編集者：小栗栖香頂　校閲兼出版人：石川舜台
1976 年 12 月出版

本書の英文の初出であるゼームス・ツループ氏の報告論文は、1885 年 10 月 221 日に東京築地の日本アジア協会の図書室で開催された総会で “Tenet of the Shinshu, or ‘True Sect’ of Buddhist”として発表された報告論文読であり、1886 年に、同協会の年次報告書である *Transactions of Asisatic Society of*

Japan, vol XLV (1-17 頁) に “On the Tenet of the Shinshu, or ‘True Sect’ of Buddhist”として出版されたのが初出である。

先にも述べた通り、このツルーブ氏の報告論文は、もともと漢文の『真宗教旨』に基づいて書かれたものであるので、著者は本書に付した「英文注 36（22 頁）」において、『真宗教旨』が中国での布教のために著されたものであることに注意喚起をしているが、本書に付された和文では、その末尾に、

> 本書は元来支那布教の為めに著述せしものなれば他邦人に在ては或は適合せざるの条項あるを免れず故今爰に原文中より抜粋抄出して其の要領を記しぬ読者幸に其意を了せよ（和文 13-14 頁）

と記されているように、この和文は、漢文の原著とは異なる部分もあり、その部分については英文の記述と内容が合致しないところがあることにも注意されたい。

また原著の漢文が東本願寺の布教のかかれに書かれたこともあってか、原文の第二章には東本願寺の厳如・現如法主についての記述があり、ツルーブ氏の日本アジア協会における報告論文にも記されているが、本書では、この部分は英文、和文ともに削除されている。

最後に、本書には、『真宗教旨』の本文の訳だけでは理解しにくいで真宗教義に関する用語や概念について、かなり詳しい著者の注が付されている。この注記については、「注 2（5 頁）」の末尾に「関連事項についての日本の専門家」から得た情報に基づいて記述したという断り書きが付されており、原文の読解に際しての著者の丁寧な作業の姿勢が現れているとともに、当時、英語圏ではほとんど知られていなかった真宗の教義についてどのような説明が必要であったかが知られることは大変興味深いことである。